

■市道山の手通り道路整備 計画コンセプト

◆上位・関連計画

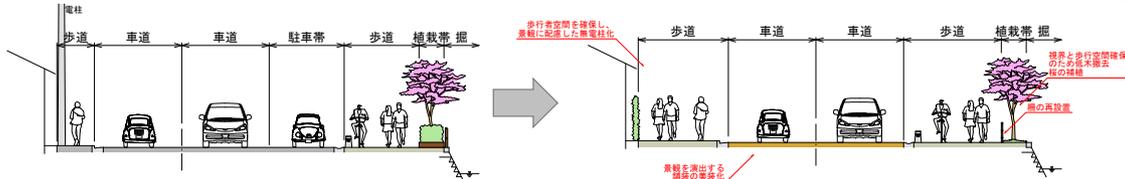
◇「第9次鳥取市総合計画 後期実施計画」(平成25年度～平成27年度)

- ・鳥取城跡観光推進事業(お堀端景観の整備、お堀端市道の植栽等の整備、等)
- ・史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備事業(史跡の保存整備・活用の推進)

◇「鳥取城跡周辺にぎわい交流ビジョン」(平成26年2月)

○計画内容

- ・景観整備・保全、道路整備(自・歩車道の再配置、舗装美装化、柵や植栽の整理、無電柱化)



整備イメージ図 (現況駐車帯がある箇所の場合)

◇「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」(平成18年3月)



ゾーニング図

○整備計画方針

A-1 城郭の中心部としての復元修復整備ゾーン

：城郭中心部へのエントランスとして江戸時代の大手登城路を復元整備し、城郭の骨格を顕在化する。

E内堀ゾーン

：史跡景観を醸成するため、石垣の修理、土塀等の復元を行い、順次城跡の正面のしつらえを整える。

◇「大手登城路復元整備範囲内における内堀整備方針」

○基本方針

- ①石垣上面構造物の軽量化の実施
(擬木柵の取替え、基礎コンクリート撤去)
- ②将来的な石垣修理を念頭に入れた整備
(極力構造物を設置しない)
- ③江戸時代の桜之馬場をイメージした整備
(堀端の低木植栽の除去、桜の補植等)

○整備内容

- ・江戸時代に架かっていた大手橋の復元整備
- ・景観や視界を阻害しないシンプルな柵の整備



鳥取県立公文書館1994『鳥府志図録』より転載

◆市道山の手通り道路整備 計画コンセプト

現在と江戸時代、明治・大正時代をつなぐ空間づくり

- ・市道山の手通りは、現在の中心市街地から、江戸時代の姿に復元される大手登城路や、明治時代の仁風閣、大正時代に開園した久松公園へ移行するエントランスに位置するため、これらに来訪者を誘う雰囲気づくりを行うとともに、来訪者が憩い安らぐことのできる空間づくりを行う。
- ・一方で、久松小学校や北中学校、鳥取西高校の通学路にもなっていることから、歩行者の安全性や快適性を確保する等の機能性にも配慮する。

◆整備方針

- ・道路の機能確保を前提としながら、現在の景観や、江戸時代の景観に復元される大手橋、明治以降に醸成された久松公園の景観との調和を図るとともに、市道山の手通りから城跡正面である石垣や久松山を見せることに重点を置く。
- ・景観を構成する素材は、城跡正面への景観を引き立たせる落ち着いたものを選定する。

◆景観素材等詳細方針

- ・本整備では、自歩道・車道の再配置、舗装の美装化、柵や植栽の整理、無電柱化を行う。

○舗装

- ・車道舗装は、江戸時代のイメージに近い土色かつ、耐久性のある自然色舗装（脱色アスファルト）とする。
- ・史跡鳥取城跡の正面玄関として生まれ変わる擬宝珠橋（大手橋）の袂に、江戸時代を迫体験できる空間を創出し、かつイベント時に歩車道をエントランス広場として一体的に活用できるよう、車止めを着脱式、歩道舗装を車道と同じ土色で計画する。また、橋の目の前にある横断歩道は景観面に配慮して移設する。
- ・歩道の平板ブロックは、歩行者目線から見て不自然となっている目地方向を、縦目地から横目地に変更し、端部を植栽帯に馴染ませるよう縁石を設けない計画とする。また、安全な歩行空間を確保するため、自歩道スペースの色分けを行うほか、既存の段差を解消する。
- ・視覚障害者誘導用ブロックについては、既存のものは復元し、県立博物館側から県庁側までの区間に新規計画する。なお色彩は、弱視者の利用に配慮して、一般的な黄色とする。

○柵

- ・お堀沿いの柵は、歩行者がサクラや水際に近づけ、より開放的な歩道空間を創出するため、できるだけお堀沿いに配置する。また、材質については復元される擬宝珠橋に馴染み、より時代感を感じられるよう、地元県内産を使った木製の柵（H=0.8m）とする。
- ただし、武道館前の水路沿いは、緑地等の緩衝帯がないことから、歩行者の安全性を確保することを重視し、耐久性の高い再生木材製の転落防止柵（H=1.1m）とする。

○ビューポイント

- ・お堀沿いの延長は約 400mあり、観光客や歩行者が景色を楽しみながらゆっくりと休憩ができる空間を創出する。久松山を背景にして、城跡、仁風閣、石垣の変化、擬宝珠橋に重点をおき、これらの施設が立体的に見渡せる場所をビューポイントとして選定し、滞留空間を設けることとする。

○植栽帯

- ・鳥取城跡周辺は日本のさくら名所 100 選に指定されており、開花時期には多くの花見観光客で賑わいを見せている。お堀端の植栽帯は、春の城跡を彩る既存のサクラを残しながら、石垣への視界を阻害している低木類や植栽帯を撤去して、歩行者が水際に近づける開放的な空間を創出する。また、既存のサクラの間隔が広い（6～8m以上）箇所については、補植を行い連続的な景観を創出する。
- ただし、サクラの詳細計画（配置、品種など）については、お堀端のみならず、城跡周辺エリア全体で統一した方針を策定することとしている。

○その他

- ・街路灯は、来訪者を国道 9 号～お堀端～久松公園や仁風閣入口まで誘導する演出で既に整備されており、そのまま活用する。
- ・サイン、看板類は、多様なデザインのものがあるため、今後、廃止や集約について各管理者と協議を行い、必要最小限のものを景観に配慮して計画する方針とする。
- ・無電柱化に伴い設置される地上機器は、所有者である中国電力等による維持管理の容易さに配慮するとともに、道路幅員が広くないことも踏まえ、色彩に配慮した景観対策とする。

計画コンセプト説明資料

サクラを基本的に残して、石垣への視界を阻害している低木類や植栽帯を撤去して、歩行者が水際に近づける空間を創出。
植栽間隔の広い箇所にはサクラを補植し、連続的な景観を創出。

観光客や歩行者が景色を楽しみながらゆっくり休憩できる空間を創出。
久松山を背景として、城跡、仁風閣、石垣の変化、擬宝珠橋等に重点を置き、これらの施設が立体的に見渡せるビューポイントとして選定。

【詳細は右図参照】

視覚障がい者の利用に配慮した誘導ブロックを配置。色彩は、弱視者の利用に配慮した一般的な黄色。

舗装端部を植栽帯に馴染ませるよう縁石を設けない。

歩行者がサクラや水際に近づけ、より開放的な歩道空間を創出するため、できるだけお堀沿いに配置。
柵は擬宝珠橋に馴染み、より時代感を感じられる県内産材による木柵を配置。

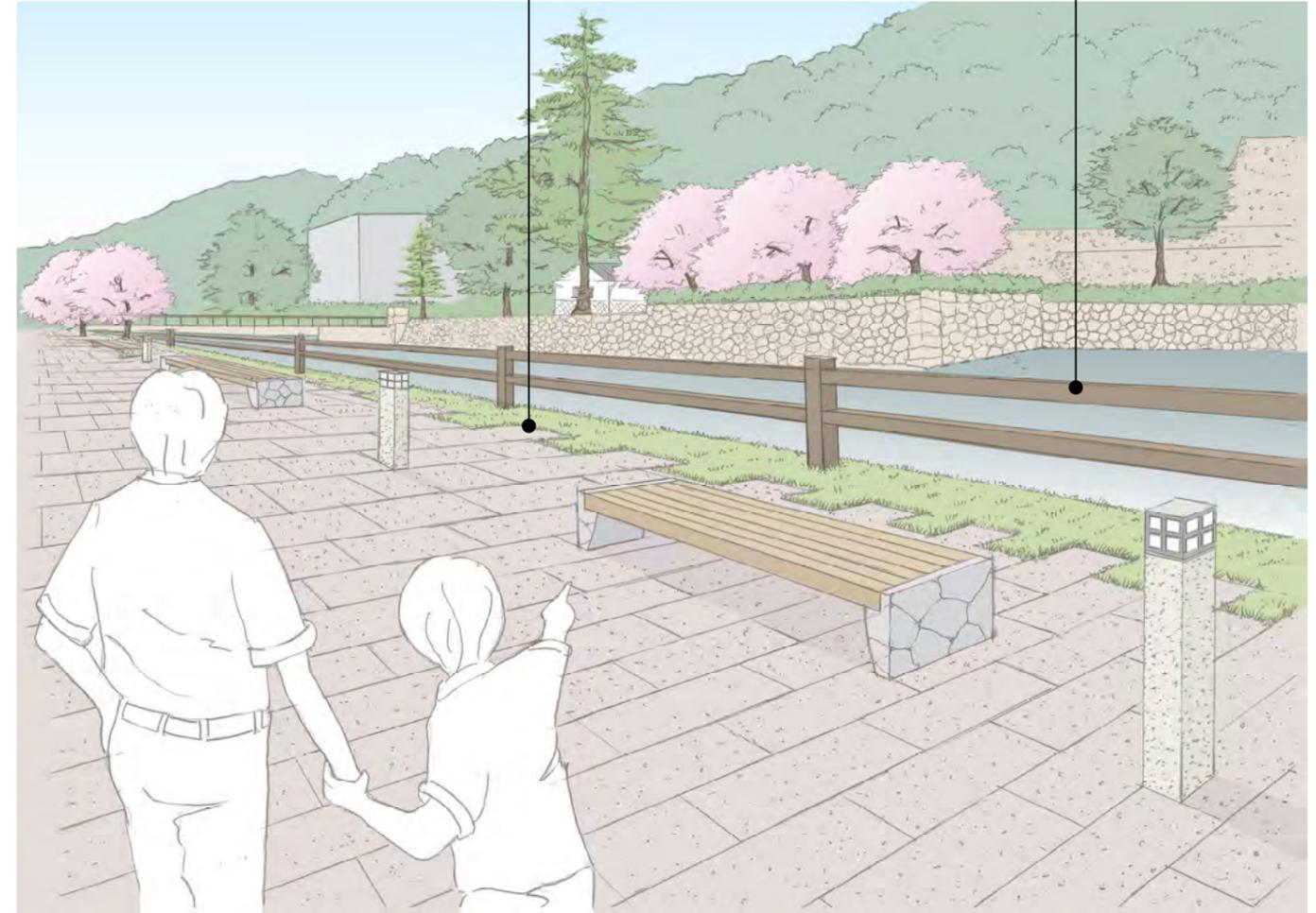


擬石平板ブロック舗装は縦目地から横目地に変更。
安全な歩行空間を確保するために、自歩道スペースを色分け。

道路イメージ

江戸時代のイメージに近い土色かつ、耐久性のある自然色舗装。

地上機器は、所有者（中国電力等）による維持管理の容易さに配慮するとともに、道路幅員が広くないことも踏まえて、色彩に配慮した景観対策。

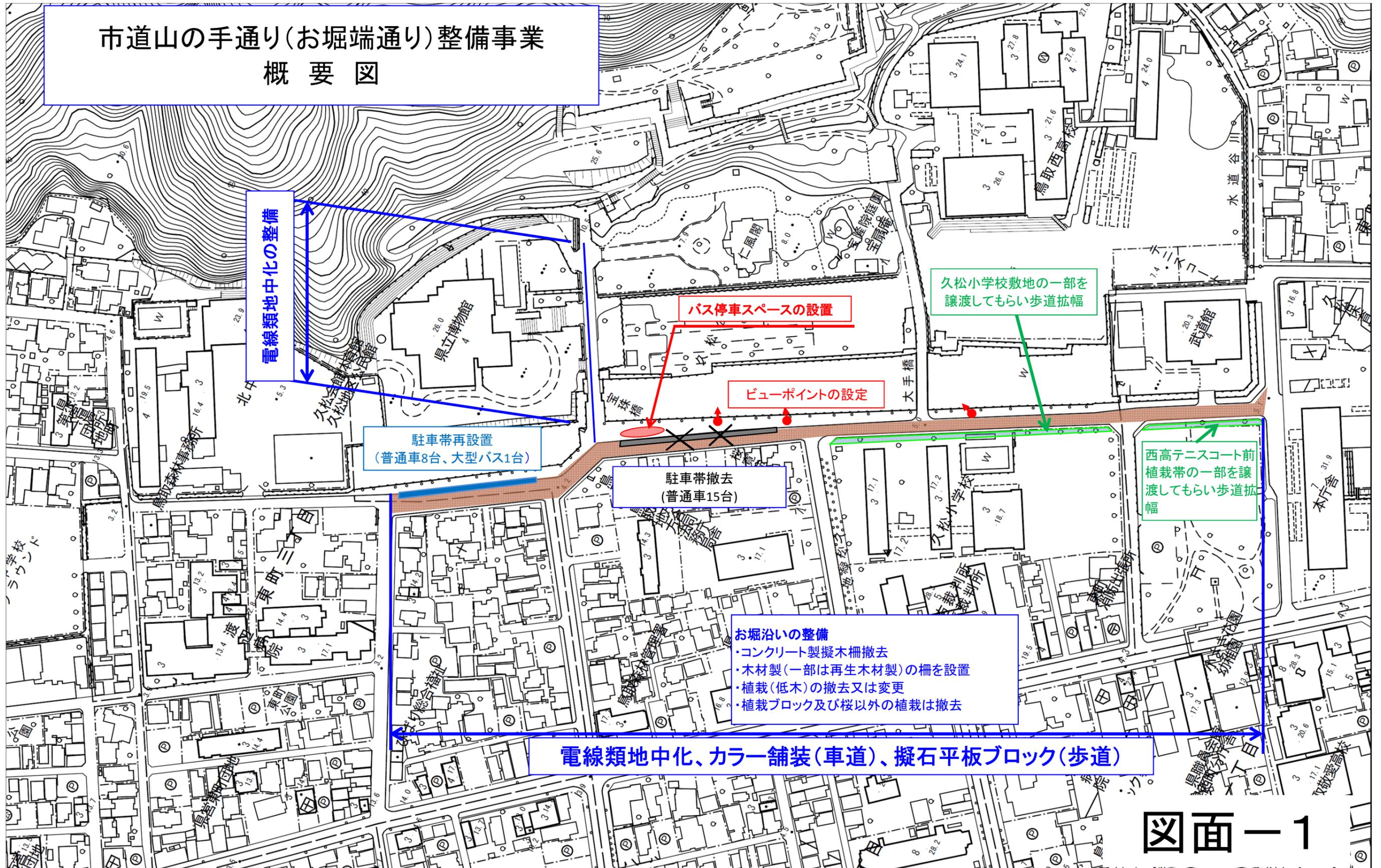


歩道滞留空間イメージ



歩道滞留空間からのビュー

市道山の手通り(お堀端通り)整備事業 概要図

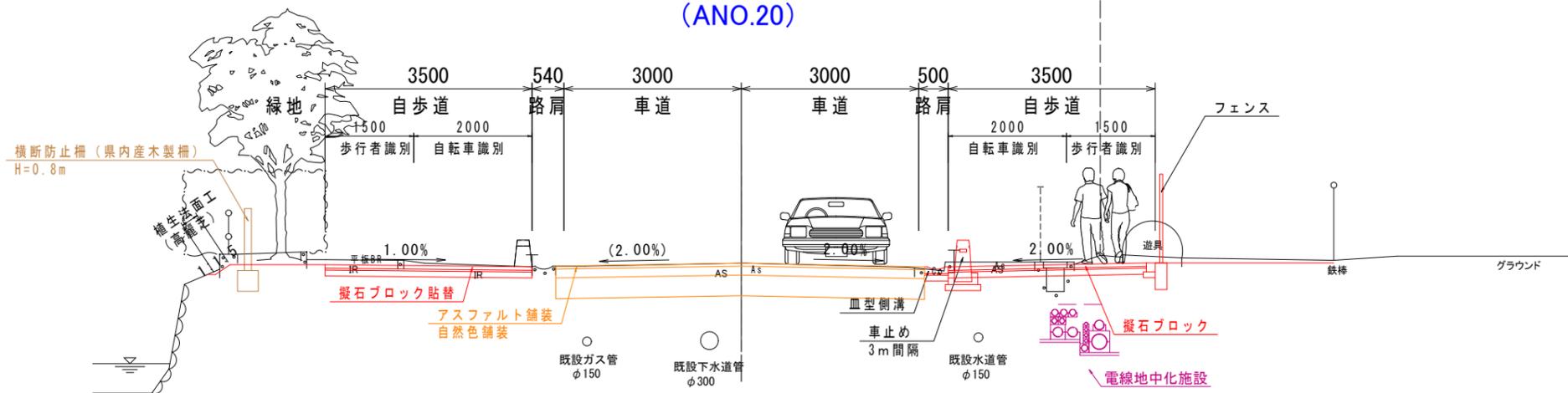


図面-1

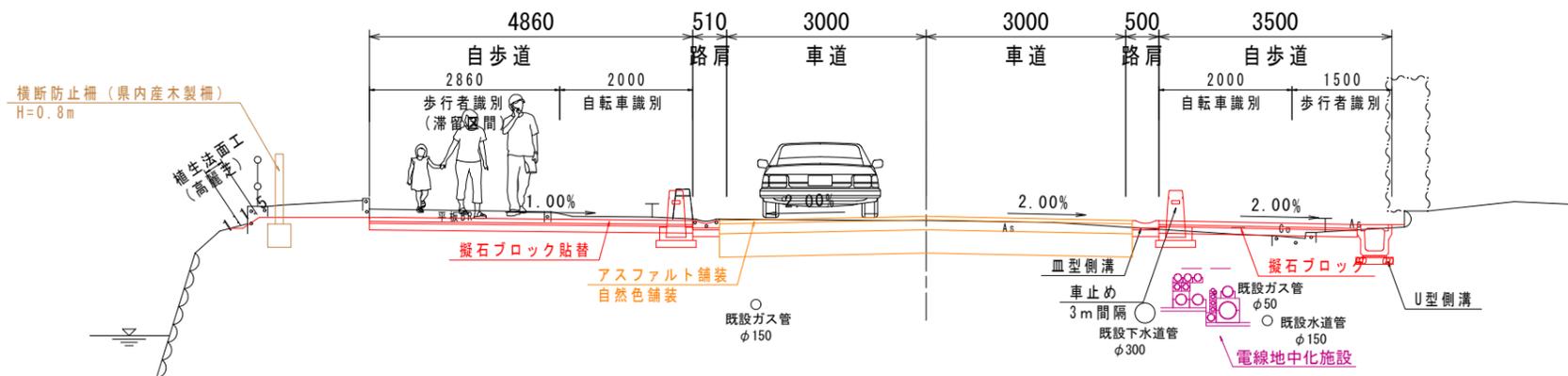
標準横断面図 S=1:50

設計条件		
設計基準の項目	基準目標値	採用値
構造規格		第4種3級
設計速度		40 km/hr

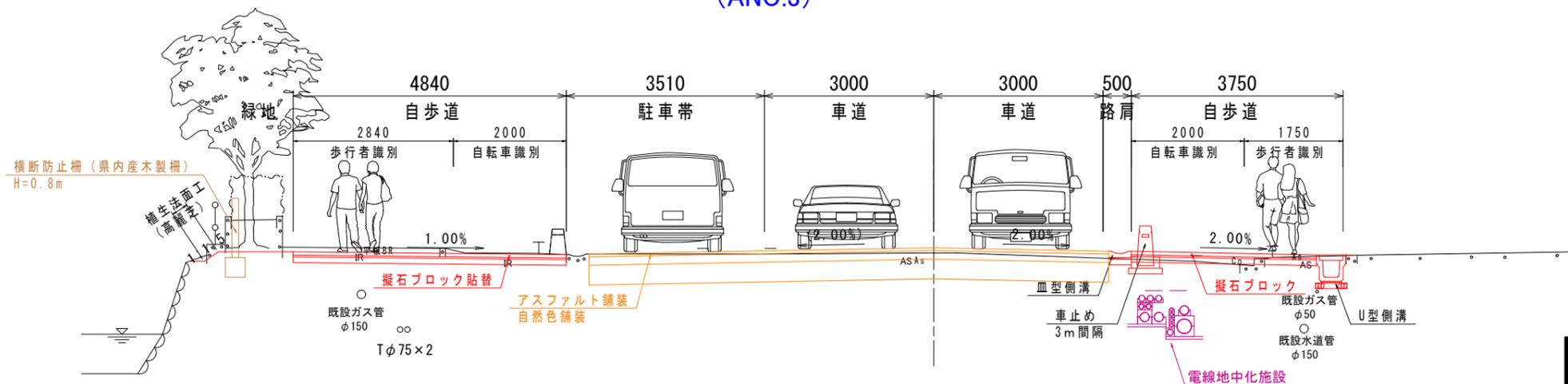
久松小学校グラウンド付近
(ANO.20)



ビューポイント③付近
(ANO.11)



県立博物館付近
(ANO.3)



イメージパース①



現況写真



完成イメージ

イメージパース②



現況写真



完成イメージ

イメージパース③



現況写真



完成イメージ

イメージパース④



現況写真



完成イメージ